

## 言語学は事例をどう扱っているのか？ 見本抽出から明らかになった扱い方の(意外な)片寄り

黒田 航<sup>1</sup> 浅尾 仁彦<sup>3</sup> 金丸 敏幸<sup>4</sup> 小林 雄一郎<sup>4</sup> 田川 拓海<sup>5</sup> 横野 光<sup>6</sup> 土屋 智行<sup>7</sup> 阿部 慶賀<sup>8</sup>

<sup>1</sup>杏林大学 <sup>2</sup>NICT <sup>3</sup>京都大学 <sup>4</sup>東洋大学 <sup>5</sup>筑波大学 <sup>6</sup>富士通研究所 <sup>7</sup>九州大学 <sup>8</sup>岐阜聖徳学園大学

### I. はじめに

私たちはそれなりの規模の日本語文の容認度データベース(黒田 et al. 2016)を構築中である。刺激文の規模は数千事例、被験者は数百人となるように準備中である。その準備の一つとして、言語学の事例の使われ方の実態調査を実施した。その結果を簡単に報告する。

結果を簡単にまとめて言えば、言語学のデータの扱いには目立った片寄りがある事が判明した<sup>1)</sup>。具体的には、第一に、研究で取り上げられている現象に片寄りがあると判った(が、これは予想内だった)。第二に、実例は一部の研究者の手による、一部の研究書や教科書に集中している。これは予期していなかった事である。

### 2. データ構築

#### 2.1 データ収集法

京都大学大学院言語科学論研究室の蔵書データベース<sup>2)</sup>に登録されていた3,663種類のレコード(レコードの異なり数: 3,176; 重複数: 487)を元に、書名が部分文字列に「日本語」「言語」「文法」「レキシ」を含むものを選出した<sup>3)</sup>。これにより231種類からなる候補集合が定義された。その要素にランダムにID = 1, 2, 3, ..., 231を割り当てた。

3名の作業員0, 作業員1, 作業員2に重複なしに候補集合を割り当てた。IDを3で割った余りが0, 1, 2である順序付きの候補列から番号が小さい順で2つの資料を選定し、その中の全事例を収集するように指示した<sup>4)</sup>。

作業員0は[3, 6, ...]の候補から33, 123を、作業員1は[1, 4, ...]の候補からID=10, 73を、作業員2は[2, 5, ...]の候補から13<sup>5)</sup>, 29を選び、例文を採集をした。採集対象の選定の基準は次の通り:

- (I) a. 入手可能条件: 候補となるレコードが貸し出し中か行方不明である場合、無視する。
- b. 質の適合性: 更にレコードが音韻論や文字論のような、容認度判定に係わらない資料は無視する。

<sup>1)</sup>これが日本の言語学の特徴なのか、言語学に一般的な特徴なのかは不明であるが、他の国でも大きく変わらないという予想がある。

<sup>2)</sup>この蔵書化に一定の採集バイアスが働いているのは疑いの余地がない。ただ、本論文の執筆者は購入者の購入方針が可能な限り多くの種類の書籍を描える事である知っており、それに基づいて学派の影響は非常に少ないと考えている。

<sup>3)</sup>この検索条件は取りこぼしが少なく、かつ非該当候補が少なくなるように、それなり工夫して決定した。

<sup>4)</sup>脚注の中の事例も収集対象に含めている。

<sup>5)</sup>作業員2は14を検討すべき処で、Excelシートの14行目にあった13を検討したと事後的に判明。

c. 量の適合性 1: 質が適合しても極端に例文の少ない本(例えば数ページにわたって例がない場合)は無視する。

d. 量の適合性 2:<sup>6)</sup> 非文が含まれない資料は無視する。

結果は表 I にある通り。なお、na は入手できなかった資料、収録数は事例最終の対象となった資料の数、無視数は入手できたが事例採取の対象から外した資料の数が、有効数は収録数と無視数の和である。

表 I: 作業員 0, 1, 2 の作業の内実

ID	作業員 0	作業員 1	作業員 2	合計
収録数	2	2	2	6
無視数	27	11	5	43
na 数	12	12	3	27
有効数	29	13	7	49

表 I にある通り、結果的に合計 44 件/49 (=6+43) 件の資料が条件を満たさないと判断され、データ収集の対象から外された<sup>7)</sup>。作業員 0 が 27 件の資料を、作業員 1 が 11 件の資料を、作業員 2 が 5 件の資料を、おのこの無視した。収集効率は 12.2% (= 6/(6+43)) であり、決して高いとは言えない。

(2) 量や質の基準に適合せずに対象から外した資料は合計で 44 (=28+11+5) 件で、内訳は次の通り:

作業員 1: 3, 6, 9, 12, 15, 24, 27, 39, 42, 45, 54, 57, 60, 63, 66, 69, 78, 81, 84, 87, 90, 96, 99, 102, 105, 108, 111, 114, 117, 120 (合計 28 件)

作業員 2: 1, 4, 7, 13, 16, 28, 31, 43, 49, 55, 58 (合計 23 件)

作業員 3: 2, 5, 8, 20, 26 (合計 5 件)

この結果から伺えるのは、実例の多い言語学の研究書や教科書の割合が実はそれ程に多くない事である。これは見方を変えれば、スカスカなデータの問題は言語研究でも真だという事である。これが§4.4 で後述する言語研究のデータの被覆力不足 (data undercoverage) の原因の一つである事は想像に難くない。ただ、次の事は考慮しておく必要があるだろう: 無視した資料に真の言語学研究が占める割合  $p$  は 100% でないので、その分の過小評価は補正すべきだろう。ただ、仮に  $p = 1/2$  だとしても、補正後の収集効率は 24% (=2 × 12%) 程度にしかならない。

<sup>6)</sup>この基準は作業員によって事後的に提案された。

<sup>7)</sup>ただし、質の適合性に関して作業員全員が同じ基準で選考していた保証はない。この点は明確にしておきたい。

以下ではこの作業の結果とその分析結果を具体的に説明する。

## 2.2 結果

### 2.2.1 容認度判定つき事例データベース

この収集作業の結果、容認度判定つきの 4,658 例の日本語の文や句の事例データベースが構築された<sup>8)</sup>。これを参考にして日本語文の容認度データベース (黒田 et al. 2016) の刺激文が設計される。

## 3. 内容基盤の分析

### 3.1 事例の出現傾向

まず事例数と事例収集源の対応を見る。概要は表 2 に示す通りである。

資料ごとの事例数と著者別の内訳は次の通り:

#### (3) 6 つの情報源の内訳

- 10 の著者: Christopher Tancredi・山品みゆき [43], 今泉志奈子・郡司隆男 [73], 岸本秀樹 [203], 影山太郎 [84], 杉岡洋子 [76], 由本陽子
- 13 の著者: 益岡隆志 [462]
- 29 の著者: 森本順子 [502]
- 33 の著者: 寺村秀夫 [1430] (全 3 巻本で)
- 73 の著者: 沼田善子 [956]
- 123 の著者: 今仁生美 [54], 前田直子 [44], 坂原茂 [37], 坪本篤朗 [49], 有田節子 [112], 田窪行則 [66], 益岡隆志 [51], 蓮沼昭子 [49], 鈴木義和 [32]; 合計 [493]
- 190 の著者: 萩原裕子 [34], 飯田雅代 [107]; 合計 [809]

興味深い事に、言語研究の事例提供力では寡占の傾向が認められる。一部の生産的な研究者が多くの事例を提供している構造がある。

詳しく調査しないと確認できないが、研究者の一人当りの事例言及率は Zipf 分布に従うのでは? それにはべき乗則が関与しているのでは? と想像される。

偶然かも知れないが、くろしお出版から出版されている書籍が多くの事例を収録している率が高い。これがサンプリングの片寄りの効果なのか真の効果なのかは確認の価値のある傾向に思える。

### 3.2 判定タイプによる分類

表 3 に見て取れるように、容認不可能な事例の割合は 15.4% (= 717/4658) で、それほど高くない。条件つきで容認可能な事例と合わせても 20.1% (= (717+242)/4658) で、決して高いとは言えない。これは、i) そもそも容認されない事例を思いつくという作業が (言語学者にとって) 難しい事、ii) 容認されない事例を持ち出す必要のある場面に限られる事が理由であると思われる。それに加えて iii) おそらく言語研究が強く確証バイアス (ギロピッチ 1993) の影響を受けている可能性もあるだろう。しかし、本質的に厄介は、理論言語学の真の目的が容認

<sup>8)</sup>これは (一般公開可能かは不明だが) 少なくとも一定の条件の下で共有可能なデータである。

可能 vs 不可能の分類問題を解く事なら、正事例に対する負事例の割合が少な過ぎて解き切れないのでは? という懸念である。これに対して理論言語学者はどう回答できるのだろうか?

## 4. 形式基盤の分析

### 4.1 統語タイプによる分類

言語学では文が容認度判定の基本単位であると了解されている。そのため、表 4 から明らかであるように、文の容認度判定が大半を占める。だが、一部の形態論に関心をもつ研究者は句や語の単位での容認度を検討している。データ収集の対象となった ID=10, 33 の資料に句単位の判定が多く含まれている。

### 4.2 構文基盤の分析

利用できる方法が不明であるため、構文基盤の分析は実行しなかった。

### 4.3 トークン基盤の分析

全 4,658 件の事例をそれぞれ mecab で形態素解析にかけて得られたトークン数は 12,942 で、タイプ数は 1,214 個であった。

頻度 30 を越えるトークンの一覧は表 5 にある通り。

#### 4.3.1 トークンの品詞別分類

全 4,658 件の事例を品詞で分類した結果は表 6 にある通り。すぐに見て取れるように、名詞と動詞が大きな割合を占め、それに形容詞、副詞、形状詞が続く。

#### 4.3.2 動詞の使用傾向

347 種類の動詞を頻度つきで付録 B に示す。これは見る限り、言語学者が研究で扱っている動詞の種類は相当の片寄りを示している。時相で分類すると明らかになると思うが、移動動詞の割合が多い。

#### 4.3.3 副詞の使用傾向

50 種類の副詞を頻度つきで付録 C に示す。一見した所で態度副詞の割合が多いように思われるが、この理由は資料 29 がそういう研究だからか?

#### 4.3.4 名詞の使用傾向

収集された事例には 630 種類の名詞が存在した。紙面の都合で頻度 4 以上のもの (199 種類) を頻度つきで付録 D に示す。言語学者が研究で扱っている動詞の種類は少なく、関心の低さを物語っている。これは言語学者が文法に関心を寄せている事の反映だろうが、それが望ましい事なのかは疑問の余地がある。

表 2: 事例収集源と事例数

ID	書名	著者・編者	出版社	巻数	出版年	事例数
10	文法理論:レキシコンと統語	伊藤たかね (編)	東京大学出版会	I	2002	809
13	命題の文法: 日本語文法序説	益岡隆志著	くろしお出版	I	1987	462
29	話し手の主観を表す副詞について	森本順子	くろしお出版	I	1994	502
33	日本語のシンタクスと意味	寺村秀夫	くろしお出版	3	1982	1432
73	現代日本語とりたて詞の研究	沼田善子	ひつじ書房	I	2009	955
123	日本語の条件表現	益岡隆志 (編)	くろしお出版	I	1993	494

表 3: 判定タイプによる分類

タイプ	エンコード	個数
容認不可能	0	717
条件つき容認可能	1	242
完全に容認可能	2	3699
Total		4658

表 4: 統語タイプ分け

文	4126	名詞句	230
文の名詞化	51	他の句	21
動詞句	159	不明	8
動詞	63		
Total			4658

表 5: 頻度 30 を越えるトークン (48 種)

token	freq	token	freq	token	freq	token	freq
EOS	983	です	133	だろう	64	)	46
は	590	さん	126	から	64	かれ	45
た	468	も	116	どう	63	ええ	44
が	433	ます	98	ん	60	その	38
」	358	いる	90	彼	59	それ	37
に	318	だ	89	れ	57	ある	37
を	297	と	87	花子	54	ませ	34
て	265	ー	78	ください	52	ぜひ	34
の	265	ない	71	まし	52	先生	33
か	166	太郎	68	山口	50	へ	32
し	149	この	67	い	50	そう	31
で	141	来	66	こと	49	日	31

表 6: 品詞ごとの内訳

品詞	個数	割合 (%)
名詞	630	48.1
代名詞	22	1.7
副詞	51	3.9
助動詞	40	3.1
助詞	40	3.1
動詞	347	26.5
形容詞	57	4.3
形状詞	28	2.1
感動詞	11	0.8
接尾辞	42	3.2
接続詞	5	0.4
接頭辞	4	0.3
空白	1	0.1
補助記号	15	1.1
記号	11	0.8
連体詞	7	0.5
合計	1,311	100.0

#### 4.4 議論と考察

以上の結果は語彙要素の解析の評価であり、構文要素の解析の評価ではないが、この初歩的な結果から、言語学が研究で扱っている現象は語彙的に相当に片寄っており、被覆力不足を否定できない事が明らかであろう。そうになっている理由は第一に言語学の目的が文法の記述と説明であるからだが、それで使っているデータの片寄りが正当化できるものなのかは、相当に疑問が残る。

#### 5. 結論に代えて

本研究は言語学の研究書や教科書にどんな実例が使われているかを無作為抽出の手法に基づいて調査した。その結果、次の事が明らかになった。1) 事例の分布は一部の資料に片寄っている。そのような片寄りを生じさせる原因は、生産的な研究者とそうでない研究者の違いである。2) 品詞ごとにトークンが片寄っている。

#### 謝辞

本研究は文科省の「言語研究者の容認度評定力の認証システムの試作: 容認度評定データベースを基礎にして」(課題番号: I6K13223) の支援を受けた。石田育子、岡久太郎、田中悠介(いずれも京都大学大学院) の 3 名にデータ収集作業で協力を頂いた。

#### 参考文献

- ギロピッチ, T. (1993). 人間この信じやすきもの: 迷信・誤信はどうして生まれるか. 新曜社. [原典: Thomas Gilovich (1993). *How We Know What Isn't So: The Fallibility of Human Reason in Everyday Life*, Free Press.
- 黒田 航, 阿部 慶賀, 横野 光, 田川 拓海, 小林 雄一郎, 金丸 敏幸, 土屋 智行, and 浅尾 仁彦 (2016). (言語学者による) 容認度評定の認証システムを試作する構想: 入念に設計された日本語文の容認度評定データベースに基づいて. In 日本認知科学会第 33 回大会発表論文集, pp. 557-562. 日本認知科学会.

#### A 事例収集の対象になった資料 (59 種類)

紙面の都合で出版社は割愛している。

- 日本語表現学を学ぶ人のために / 糸井通浩.
- Handbook of Japanese compound verbs (= 日本語複合動詞ハンドブック) / Yoshiko Tagashira.
- 日本語文法の歴史と変化 / 青木博史編.
- 日本語音韻の研究 / 金田一春彦著.
- する・した・している / 砂川有里子著.
- 日本語の韻律構造 / 崔鉤喆著.
- 日本語は論理的である / 月本洋著.
- 日本語教育教授法 (上) / 寺村秀夫編.
- 文法理論: レキシコンと統語 / 伊藤たかね編.
- 日本語要説 (改訂版) / 工藤浩 [ほか] 著.
- 命題の文法: 日本語文法序説 / 益岡隆志著.
- 日本語学習者の文法習得 / 野田尚史 [ほか] 著.
- 現代日本語における否定文の研究: 中国語との対照比

較を視野に入れて / 王学群著. 20. 日本語の比較研究 / 村山七郎著. 24. 第二言語としての日本語の習得研究 / 第二言語習得研究会 [編集]. 26. 日本語教育・日本語学の「次の一手」 / 庵功雄著. 27. 第二言語としての日本語の習得研究 / 第二言語習得研究会 [編集]. 28. 日本語の文法 (上) / 国立国語研究所 [編]. 29. 話し手の主観を表す副詞について / 森本順子著. 31. 類別詞の対照 / 西光義弘. 33. 日本語のシンタクスと意味, 第1巻-第3巻 / 寺村秀夫著. 39. 日本語と日本語教育: 語彙編 - 文字・表現編. 42. 日本語学要説 / 宮地裕編. 43. 日本語研究の周辺 / 伊谷純一郎 [ほか] 執筆. 45. 日本語の論理: 言葉に現れる思想 / 山口明穂著. 49. 条件表現の対照 / 益岡隆志編. 54. 日本語をどう書くか / 柳文章著. 55. 語彙探究法 / 小池清治. 57. 日本語百科大辞典 / 金田一春彦. 58. 談話表現ハンドブック: 日本語教育の現場で使える / 泉子・K・メイナード著. 60. 日本語百科大辞典 / 金田一春彦. 63. 日本語の文法を考える / 重見一行著. 66. 古代日本語時間表現の形態論的研究 / 鈴木泰著. 69. 日本語要説 / 工藤浩 [ほか] 著. 73. 現代日本語とりたてて詞の研究 / 沼田善子著. 78. 日本語を外国人に教える日本人の本 / 江副隆秀著. 81. 日本語の文脈依存性に関する理論的実証的研究 [1] / 西光義弘 [編]. 87. 日本語の意味・語彙 / 阪倉篤義司会. 90. 英語を通して学ぶ日本語のツボ / 菅井三実著. 96. 日本語はどこから来たか / 津田元一郎著. 99. 日本語学と言語学 / 玉村文郎編. 102. 日本語文法の機能的分析と日本語教育への応用: 研究報告 / 井上和子 [編]. 105. 日本語源大辞典 / 前田富祺監修. 111. 日本語要説 / 工藤浩 [ほか] 著. 114. 日本語態構造の研究: 日本語構造伝達文法発展 B / 今泉喜一著. 117. 中古語 / 山口佳紀編. 120. 翻訳とはなにか: 日本語と翻訳文化 / 柳文章著. 123. 日本語の条件表現 / 益岡隆志編.

## B 事例に使われている全動詞 (頻度順)

し (138), いる (78), 来 (59), ください (52), い (41), ある (29), 行く (28), あり (27), さ (26), 行き (25), 来る (14), 買っ (13), 言っ (13), 帰っ (13), する (13), いる (12), 開け (11), あっ (11), 見 (10), なり (10), なっ (10), 読ん (9), 帰る (9), 出 (9), なる (9), する (9), しれ (9), し (9), 降っ (8), 起こっ (8), 思っ (8), いう (8), い (8), ある (8), 言わ (7), 止め (7), 来 (7), 悲しん (7), 張り出し (7), 売れ (7), 借り (7), いう (7), 取っ (6), 勝っ (6), 出る (6), 入れる (6), やめ (6), み (6), なさい (6), しかっ (6), 食べ (5), 贈っ (5), 買っ (5), 行っ (5), 来い (5), 教え (5), 思わ (5), 吹き飛ばさ (5), 会っ (5), 亡くなっ (5), よっ (5), もらっ (5), こわし (5), いつ (5), いか (5), 離れ (4), 降り (4), 遊び (4), 調べ (4), 読む (4), 読ま (4), 話し (4), 訪れる (4), 行か (4), 置い (4), 笑っ (4), 知っ (4), 死ぬ (4), 書か (4), 描い (4), 待っ (4), 喜ん (4), 呼ぶ (4), 向け (4), 召し上がっ (4), 出す (4), 写し (4), 入れ (4), 与え (4), やん (4), でき (4), しれ (4), くれ (4), き (4), いらっしやい (4), あろう (4), 食べる (3), 食べ (3), 預け (3), 選ん (3), 違ひ (3), 遅れ (3), 通る (3), 覚え (3), 行こう (3), 考え (3), 渡し (3), 残し (3), 死ん (3), 死な (3), 建て (3), 帰ろう (3), 始まっ (3), 呼びかけ (3), 吹か (3), 上がっ (3), はやっ (3), できる (3), でき (3), たのん (3), すみ (3), しから (3), 鳴る (2), 飛ぶ (2), 飛び込み (2), 間に合っ (2), 閉め (2), 長引き (2), 違っ (2), 運び (2), 連れ (2), 載せる (2), 起こし (2), 贈り (2), 読み (2), 認め (2), 話す (2), 話し合っ (2), 言い (2), 見つかった (2), 行く (2), 薦め (2), 置き (2), 移し (2), 知り (2), 知ら (2), 着く (2), 着 (2), 直る (2), 疲れ (2), 申し上げ (2), 現れ (2), 焼き払っ (2), 泳げる (2), 決まり (2), 歩い (2), 歌わ (2), 書き (2), 書い (2), 捨て (2), 持ち去っ (2), 招き (2), 手伝っ (2), 愛する (2), 愛さ (2), 思え (2), 思い (2), 引きさ (2), 引い (2), 引い (2), 建て (2), 崩し (2), 寝 (2), 好か (2), 変わっ (2), 呼ぶ (2), 呼びかけ (2), 向かっ (2), 名乗っ (2), 動い (2), 助ける (2), 助け (2), 別れ (2), 出し (2), 入る (2), 入っ (2), 作り直す (2), 作っ (2), 会っ (2), 乗せ (2), わから (2), わかっ (2), やり (2), やめる (2), やめる (2), やっ (2), もらい (2), みる (2), みえ (2), まじえ (2), なら (2), なっ (2), なさる (2), なぐっ (2), なくなり (2), つない (2), たつ (2), しまっ (2), さばる (2), おぼれ (2), おどろい (2), いつき (2), いける (2), いく (2), 騒い (1), 飾っ (1), 飲め (1), 飲ま (1), 頼ま (1), 預け (1), 離れる (1), 集まっ (1), 降る (1), 酔っ (1), 選ば (1), 違っ (1), 通っ (1), 送り (1), 送っ (1), 追いかける (1), 踏ん (1), 起こり (1), 走る (1), 贈ら (1), 貸し (1), 講じ (1), 認めよう (1), 話せる (1), 話

さ (1), 訪れ (1), 訪れ (1), 見る (1), 要り (1), 育っ (1), 聞い (1), 考え (1), 習っ (1), 習う (1), 立っ (1), 立た (1), 積み上げ (1), 積み上げ (1), 着い (1), 生まれる (1), 生き返っ (1), 現れ (1), 焼き払わ (1), 浴び (1), 活け (1), 求め (1), 残さ (1), 死ぬ (1), 死に (1), 歩か (1), 止まっ (1), 楽しん (1), 放っ (1), 改め (1), 描か (1), 捨て (1), 捕まっ (1), 拳げ (1), 持ち去ら (1), 抱き上げ (1), 打ち明け (1), 憎ん (1), 感じる (1), 感じる (1), 感じよう (1), 感じ (1), 悩ん (1), 悩む (1), 思おう (1), 思う (1), 怒ら (1), 忘れ (1), 引きさか (1), 帰り (1), 差し上げ (1), 始まる (1), 奪わ (1), 基づい (1), 喜ば (1), 呼ん (1), 呼び (1), 味わっ (1), 受け止めよう (1), 受け止め (1), 受け止め (1), 受け取り (1), 受け取っ (1), 勝っ (1), 励ん (1), 加え (1), 出会っ (1), 働い (1), 傷つけ (1), 傷つい (1), 倒れ (1), 保た (1), 作ら (1), 住める (1), 似る (1), 休ま (1), 争っ (1), 乗っ (1), 乗せる (1), 並べ (1), 下さる (1), みつもる (1), みつけ (1), ぶっ (1), ふえる (1), はい (1), なり (1), ながら (1), なくし (1), とまり (1), つぶれ (1), たまっ (1), たけ (1), すぎ (1), しよう (1), しゃべり (1), しかる (1), こわさ (1), かき (1), かかり (1), うけとる (1), うけとり (1), うかがい (1), いただい (1), いけ (1), あれ (1), あり (1), あやまり (1), あたため (1), あたたまっ (1)

## C 事例に使われている副詞の一覧 (頻度順)

どう (63), ぜひ (34), たぶん (30), そう (25), もちろん (24), すぐ (22), きっと (19), ひょっと (16), もう (15), あいにく (15), まだ (14), どうぞ (12), さぞ (11), かならず (11), よく (10), ゆっくり (10), しょせん (10), さいわい (9), どうせ (8), やはり (7), とうぜん (7), まさか (6), もし (5), たしか (5), 大変 (4), わざと (4), こう (4), 随分 (3), 相当 (3), 少し (3), にこにこ (3), おそらく (3), あまり (3), 全然 (2), やっぱり (2), とても (2), ちよっと (2), たくさん (2), たいへん (2), すっかり (2), ざわざわ (2), よろしく (1), やっと (1), もっと (1), また (1), ひっそり (1), はっきり (1), すこし (1), けっして (1), がっかり (1), いよいよ (1)

## D 事例に使われている名詞 (頻度順)

紙面の都合で頻度 4 以上のもの (199 種類) に限った:  
 太郎 (67), 花子 (54), こと (49), 先生 (33), 次郎 (30), 日 (27), 山口 (25), 山口 (25), ジョン (25), あした (23), 子供 (22), 車 (20), 結婚 (20), 生徒 (19), 日本 (19), 加藤 (19), 佐藤 (19), 山田 (18), 雨 (17), 絵 (17), 事実 (17), 金 (16), 家 (16), 中 (16), 本 (15), まち (15), I (15), 人 (14), 息子 (13), 2 (13), 窓 (12), 東京 (12), 勉強 (12), 会議 (12), 度 (11), 店 (11), 友人 (11), S (11), 雪 (10), 部屋 (10), 洋子 (10), 成功 (10), 京都 (10), 事故 (10), 世紀 (10), ぜったい (10), 約束 (9), 本当 (9), 外国 (9), 一 (9), o (9), 荷物 (8), 自分 (8), 町 (8), 犯人 (8), 寺 (8), 天気 (8), 参加 (8), 前 (8), けっきょく (8), 金曜 (7), 道 (7), 軍 (7), 時間 (7), 山 (7), 名古屋 (7), 何曜 (7), 事件 (7), 主人 (7), まりこ (7), 買い物 (6), 男子 (6), 求人 (6), 母 (6), 歴史 (6), 昨日 (6), 放置 (6), 広告 (6), 会 (6), 今年 (6), 予想 (6), 予想 (6), プレゼント (6), とき (6), それぞれ (6), 高値 (5), 警察 (5), 親友 (5), 葉 (5), 練習 (5), 結果 (5), 発明 (5), 田中 (5), 様子 (5), 来週 (5), 映画 (5), 手 (5), 思い違い (5), 当時 (5), 建設 (5), 庭 (5), 学生 (5), 子 (5), 問題 (5), 原因 (5), 医者 (5), 勝負 (5), 初め (5), 以上 (5), 人生 (5), 上京 (5), パーティー (5), サイモン (5), みちこ (5), ほう (5), なり手 (5), じつ (5), がん (5), おもちゃ (5), いやいや (5), 飼犬 (4), 飛行 (4), 音楽 (4), 鑑定 (4), 野菜 (4), 運転 (4), 象 (4), 調整 (4), 親切 (4), 西洋 (4), 虚無 (4), 自転 (4), 育ち (4), 結論 (4), 経巻 (4), 空海 (4), 確保 (4), 病院 (4), 病気 (4), 田村 (4), 無理 (4), 気 (4), 歌 (4), 機 (4), 木曜 (4), 散歩 (4), 握手 (4), 指輪 (4), 指示 (4), 抱擁 (4), 所持 (4), 恋人 (4), 府 (4), 年 (4), 小説 (4), 寺々 (4), 嫁 (4), 娘 (4), 天王 (4), 大学 (4), 圭子 (4), 土産 (4), 回 (4), 品 (4), 各地 (4), 前半 (4), 冬 (4), 公園 (4), 僧 (4), 伸子 (4), 今日 (4), 今 (4), 人間 (4), 京子 (4), 二 (4), 上 (4), 一切 (4), レポーター (4), レイクサイド (4), ルーム (4), メンバー (4), メモ (4), メイ (4), ホテル (4), ベル (4), ベッド (4), ベスト (4), プレスレット (4), パラ (4), ネットレス (4), ニュースキャスター (4), ケーキ (4), わけ (4), ちがひ (4), うち (4), あたり (4), 9 (4), 8 (4), 7 (4)